



冬のハウスでアスパラガスを収穫

～アスパラガス一年養成株の伏せ込み栽培～

富山県農林水産総合技術センター園芸研究所

背景とねらい

アスパラガス一年養成株の伏せ込み栽培とは、春に圃場に定植した株を冬に掘り取り、ハウスに伏せ込み加温し、冬から春にかけて萌芽した若茎を収穫する作型である。栽培期間が1年のため、病害のリスクが少ないことが特徴である。根株周辺を加温することで若茎は萌芽し、気温と日照に左右されないため、東北を中心に栽培されている。また、冬季の国産アスパラガスの生産量は少ないため高値で取引されており、需要も大きい。

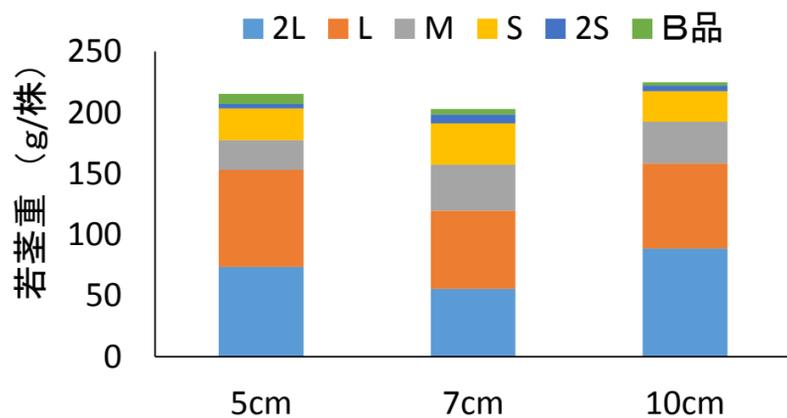
富山県においては、①東北に比べると春が早く、冬は寒くないので栽培しやすい、②冬季に遊休ハウスがある、③冬季の農閑期の労働力の活用と収入源となる、といった利点がある。

一方で、早い定植が可能のため、育苗方法や植付方法が東北と異なることや、低温が足りず黄化が進まないため、掘り取り時期の判定が難しいといった課題があったことから、栽培試験に取り組んだ。



成果の内容

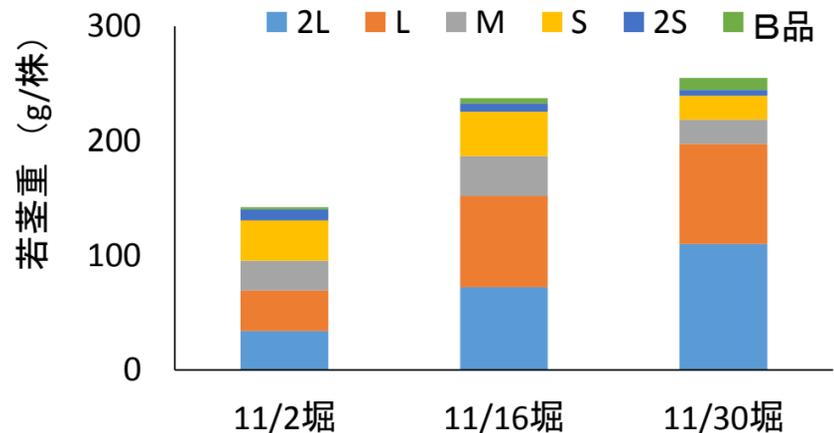
1. 養成圃場定植時の植付深度の影響



若茎奇形率

	5cm	7cm	10cm
奇形率(%)	3.8	1.6	1.2

2. 株の掘り取り時期が収量に及ぼす影響



**結果: 太くて良質の若茎収穫のためには植付深度は10cmがよい。
掘り取り時期は11月中旬以降で収量性が良い。**

成果の活用

本作型は農業者の関心が高く、研修会を本年度に3回開催し栽培方法を説明した。新規栽培者を含め、本年度は黒部市、富山市、氷見市、砺波市、南砺市の県内各地で本作型のアスパラガスが栽培され、成果が活用されている。